月桃（げっとう）通信 No26　2021 年 7 月 21 日

平和の捨て石

石原艶子

イラスト：大城旋律（孫）

〇家を建てる者の退けた石が隅の親石となった。

（旧約聖書　詩篇 118：22）

〇私たちの小さな試みが、平和への捨て石となり大きな希望に繋がることを祈る。（中村哲）

〇前進するなら歴史を繰り返すのではなく新しい歴史をつくろう。わたしたちの祖先が残した遺産に新たな良きものを加えよう。

（ガンジー魂の言葉）

捨て石からの望みと平和

――冒頭に書いた聖書の言葉と中村哲さんの言葉が今、私たちに問いかけています。大国に踏みつけられ、内乱と干ばつに苦しむアフガニスタンの人々は飢えにあえぎ、人間としての尊厳も奪われて生存の危機に瀕しています。このアフガンの地で 1600 本の井戸を掘り、65 万人の命を支える用水路を建設しました。砂漠化した大地は緑の大地に蘇えり、家族が温かな食卓を囲む人間の生活が蘇えりました。これが捨て石とされたアフガンの地で自らが捨て石となった中村哲さんの命をかけた働きでした。捨て石とはわが身を捨て、人々と共にあることを喜び捧げ尽くすこと、そしてその地で死することだったのです。私は思います。平和は中村哲さんの生と死が語っているように、捨てられた地で捨て石として生きる人が存在することによって生れ、希望へとつながるということを。滅亡から救われる道がここにあるということを。私は神によって創造された人間の持つ愛を信じたいのです。滅亡ではない希望があることを信じたいのです。沖縄もまた捨て石とされた地です。とんでもないことが次々と起きています。私たちは、この沖縄の地でこそ中村哲さんの生と死にしっかりつながって、捨て石となって叫び続けましょう。平和は私たちひとりひとりの心の内から生れてきます。アフガン、そして沖縄、中村哲さんとの命のつながりが与えられていることを感謝して、前に進みましょう。未来を生きる人々の幸せを祈り、滅びのない希望に向って。

平和と希望の種、ど根性ひまわり

2011 年東日本大震災の巨大津波に飲み込まれた岩手県石巻、多くの命を失い、家も失い、ただ茫然と立ちつくす人々は、その年の夏、ガレキの山の中に咲く一本のひまわりを見たのです。そのひまわりは〝ど根性ひまわり〟と呼ばれるようになり、人々の心に復興への希望の光をともしてくれました。その一本からの種は打ちひしがれている人々を励まし、沢山のひまわりを被災地のあちこちに、そして東北の人々を励ます日本中の人々の元に届けられ花を咲かせました。そして昨年、うつぐみの会の大野悦子さんを通して、沖縄の私の元にも届いたのです。沖縄の私たちは平和の種として、苦難の中にある東北の人々、原発事故によって未だに故郷に帰れない人々の苦難に連帯して、戦争のない世を願い、原発のない世を願い祈り沖縄の地にど根性ひまわりの花を咲かせました。暑い沖縄では二月に播いた種は、友人宅の庭に大輪の立派な花を咲かせて、沢山の種が取れました。４月３日、私たちは本部町健堅の地に 76 年前の悲しい戦争の歴史を思い起こし、平和を祈りど根性ひまわりの種を撒きました。

1945 年 1 月 22 日、沖縄各地に空爆、前年の 10・10 空襲に次ぐ大きな空爆でした。米軍の攻撃は 7 波に及び南部へと 555 機が来襲したのです。本部港では彦山丸（短期海軍徴用船 2073ｔ）物資搭載作業中米軍の銃撃、爆弾投下、焼夷弾による火災などにより、乗組員の生存者は一人も居ませんでした。また正確な死者数も分っていません。この中には強制連行されてきた朝鮮人がいました。「本部町健堅の遺骨を故郷に帰す会」は 2020 年 2 月 7 日～12 日、健堅の遺骨共同発掘作業を実施しました。遺骨は見つかりませんでしたが、韓国、台湾、日本の学生や若者達も参加して、埋められた歴史、記憶を探し求めてのひとつの意義深い活動となりました。健堅の地に咲いた大きいひまわり、小さいひまわりは「彦山丸のことを忘れないでいて下さいね」と私たちに語りかけています。ど根性ひまわりが来年もまた沖縄のあちこちに、そして私たちの心の中に平和の花を咲かせてくれますようにと願っています。

<u>恨の碑</u>

2006 年、恨の碑は沖縄読谷村瀬名波ムラの丘の上、ガジュマルの木の前に建立されました。沖縄を代表する彫刻家、金城実さん入魂の作品です。主人公は日本軍によって銃殺される場所へと連行される若者です。（阿嘉島での朝鮮人軍夫の銃殺事件）目隠しされ、縄で縛られた腕は後ろにまわされています。その足元に座して慟哭する母親、その隙間に銃で若者に殴りかかる日本兵は怯えているように見えます。処刑場に進む若者はたくましく、美しく誇り高く胸を張り、抵抗の精神と尊厳に満ちています。私達は毎年、６月に恨の碑の前に集い追悼集会をし、平和への祈りを捧げています。ゲート前でゴスペルを歌う会も参加し、祈りを込めて歌っています。年ごとにガジュマルの木が枝を広げ地上の根っこが成長して、恨の碑を堅く抱いている姿に感動し、ここがどれほど大切な場所であるかを実感します。私たちは恨の碑の前に立ち、恨の深い痛み、悲しみを新たに思い、恨を乗り越えて共生へと前進したく願いました。恨とは何かについて平良修先生は次のように語っておられます。『朝鮮語で言う「恨（ハン）」は「恨み、つらみ、その先にある復讐」が当然であるような仕打ちを受けた者が、その傷を忘れるのでも、水に流すのでも、あたかもなかったかのようにするのでもなく、逆に心の底に深く刻みながらも、それを乗り越えバネにして、新しい共生の道を築いていこうとする未来志向の思想を表す言葉です。私たちは、「いぶし銀のように輝く希望」の碑を建てることを決意し、遂に７年かけてそれを成し遂げました。』韓国の恨の碑は沖縄より７年前の 1999 年８月 12 日慶尚北道英陽郡の小高い丘の上に建立され除幕式が行われました。金城実さん制作、同一の恨の碑は朝鮮半島韓国と沖縄と向い合って建っています。隔ての海は結びの海となり、共生の希望の道が開かれたのです。

韓国「恨の碑」除幕式での代表者の方々の言葉の一部分を御紹介します。

◎碑を建立させるために注ぎ続けた皆様のご苦労が私たちには言葉では表せない程の感動でした。私たちが努力さえすればいくらでも友達になれるし世代と国境を越えて友情を分ち合える身近な関係であることを心で感じています。（姜仁昌　カンインチャン）

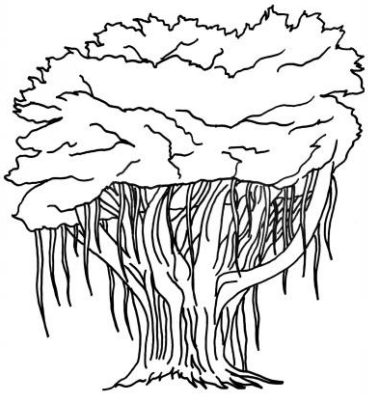
◎今まで日本と言えば、見るだけでも辛く思いましたが、今は凍りついた心が雪解けのような気持ち、感動の涙となりました。不正義がこの地に立つことは出来ないということを子孫たちに認識させることが私たちの最後までの使命なのです。（徐正福　ソジョンボク）

◎私達は本当に近い隣人になれることを確信しました。不幸だった過去の歴史のために日本を憎悪し、日本人に対する怨みだけが私の胸の中にありました。犠牲者の恨みを解く今回の事業にとりくんで、韓日両政府が出来ないことを私たちの力でやり通したという自負心を持つことが出来ました。私たち韓国人を目覚めさ

せてくれたことも大きな成果でした。（金鐘大　キムジョンデ）
◎恨の碑に「再び加害者にも被害者にもならない」という強い決意を込めました。英陽のこの碑が両国国民の友情の強い礎として、その出発点となることを願って止みません。（事務局長　豆多敏紀）

日本はアジア太平洋戦争、沖縄戦において朝鮮半島から 100 万人以上もの人々を強制連行し、その内沖縄連行軍夫は 2815 人で、その内の生還者は 650 人でした。絶対に忘れてほしくないひとつのことがあります。それは日本帝国植民地時代に、軍属として徴用され敗戦後は日本の戦争責任を肩代わりさせられ「韓国・朝鮮人 BC 級戦犯者」として裁かれ処罰された人々が居た事をです。一国の戦争責任を負わされた理不尽さ、いつ処刑されるか分らぬ恐怖、巣鴨刑務所の生活。戦後生き残った韓国人戦犯者 62 人でスタートしたタクシー会社は成功し、一人も切り捨てない理念で生きぬいています。これらの歴史の真実を消してはならないことを今も恨の碑は私たち日本人に訴え続けているのです。記念碑は長い歳月の間には建立した当初の人々も亡くなり、忘れ去られていくかもしれません。だから今、恨の碑に刻まれた碑文を皆さんと共有して次世代に伝えていくことが大切だと思います。そして冷えきった日韓関係を、かけがえのない兄弟の国の関係に作り変えていくために努力を重ねて恨の碑から希望を生み出していきましょう。

～碑文　この地に果てた兄姉の魂に～



『この島はなぜ寡黙になってしまったのか　なぜ語ろうとはしないのか
女たちの悲しみを　朝鮮半島の兄姉たちのことを
引き裂かれ、連行された兄たち　灼熱の船底で息絶え
沖縄のこの地で手足をもぎ取られ　魂を踏みにじられた兄たちよ
戦が終わり、時が経っても　この島から軍靴の音が絶えることはない
奪われた土地、消えたムラ　女たちの悲鳴は続き　人々の心は乾いたままだ
兄たちよ　未だ供養されず石灰岩の裂け目に埋もれる骨、骨、骨
故郷の土饅頭に帰ることもかなわない　兄たちよ
私たち沖縄人は　未だ運靴に踏みにじられたままの　兄姉たちの魂に　深く頭を垂れる
日本軍の性奴隷として踏みにじられた姉たち　軍夫として犠牲になった兄たちに深く頭を垂れる
やがて固く結んだ鳳仙花の種が弾け　相互の海を越えて花咲くことを信じて
兄姉よ、あなたたちの辿った苦難を語り継ぎ　地球上から戦争と軍隊を根絶することを
この地に果てた兄姉の魂に　私たちは誓う』

歴史の事実と向き合わない日本人、負の遺産はなかったことにしようとする歴史修正主義、何もかもきれいごと、美しい日本の言葉の下に片付ける偽り、謝罪しない高ぶり・傲慢、これらの精神構造に深く根づいている天皇制国家を私たちはもう一度考え、問い直さなくてはなりません。今一度中村哲さんの生と死に立ち帰り、頭を垂れ、愛することを始めましょう。

〈沖縄の今〉

◎コロナ禍の中、緊急事態宣言が続行されています。辺野古ゲート前抗議行動も休止のままです。ただ埋め立て工事だけは強行されています。厳暑の中、辺野古ゲート前、安和、塩川港、海上と抗議行動を続けている少数の仲間達に頭が下がります。

◎6月2日午後10時45分、普天間基地所属のヘリがうるま市津堅島の民家から120m離れた畑に不時着、一歩間違えば大惨事になるところでした。6月5日に抗議集会を持ちました。津堅島沖では米軍のパラシュート降下訓練が常時行われていて、漁民、船舶にとって危険極まりない事です。私達は軍事訓練の中止と日米地位協定の抜本的改定を求めました。

◎6月10日、うるま市昆布にある米陸軍の貯油施設の消火用貯水槽からPFOS・PFOAで汚染された水が流出する事故が起きました。14日に現場での抗議行動では原因究明と使用中止、撤去、立ち入り調査を求めました。PFOS（有機フッ素化合物）による米軍基地被害は深刻です。7市町村45万人分の水源が長年汚染されていたのです。基地周辺の環境汚染、住民の健康被害を防ぎ住民を守ることは日本政府がすべき責任なのに基地優先、日米地位協定遵守の下、沖縄住民は見捨てられているのです。

◎<u>土地規制法成立</u>に反対する学習会

何故今、国民がコロナ禍苦難真最中に国民に何の説明もないまま成立させたのか、姑息な政府のやり方に強い怒りを覚えます。基地周辺1キロ圏内を「特別注視区域」に指定して政府が情報管理、規制するというのです。ある研究者は「土地規制法案は土地の買い取りまで想定している点で戦前の土地収用法に近い。日本が戦争国家になるために、軍事を再び公共と位置付けるものだ。」と指摘しています。沖縄では基地反対運動の弾圧ではないかと不安が高まっています。じわりじわりと国の締めつけが沖縄に迫ってきています。「どうなる、どうする土地規制法」私たち自身が目を覚まし学習し、反対しなくては大変なことになってしまいます。

◎沖縄には製造業がなく観光産業頼みの経済です。このためコロナ禍の中での経済への影響は他府県よりも深刻です。新聞情報によると、復帰前に米国半導体メーカーの沖縄進出の計画がありましたが、本土企業保護のために頓挫したという事実を細田元官房長官が証言しました。こうして沖縄は米軍基地（70%）の島として利用され、あえて製造業を育てないできた沖縄捨て石政策が見えてきて愕然とします。今後、増々厳しくなるであろう沖縄経済は、米中覇権争いの中で軍事強化へと利用されています。

◎沖縄では今も1900tの不発弾が埋まっています。不発弾処理のための交通規制もあります。

◎南部慰霊の地、命の血が染み込み遺骨が深く入り込んでいる土砂を、辺野古埋め立てに絶対に使わせてはなりません。6/21～23日、雨の中平和記念公園でハンストをする具志堅隆松さんと宗教者の会の行動に、私も一日だけ参加して祈りを合せました。日本各市町村での反対決議があれば止めることが出来ます。力を合せて止めましょう。お願いします。

《お願い》<u>辺野古基金のために</u>

〇つながる力うつぐみの会（福生市在住：大野悦子）

着物リサイクルマスク　一枚200円　　着物リサイクル袋　500円

マスク・布バッグ在庫あり。どうぞご注文下さい!!

〇あみの会　糸リサイクル作品制作中　　※リサイクル着物、各種リサイクル糸求めています!!

〈連絡先〉〒904-1115　うるま市石川伊波　1180-5　石原艶子　携帯：090-4471-1942

〈振込先〉ゆうちょ銀行　記号：12260　番号：12650271　イシハラツヤコ